 月刊 都響
2022 January



気を付けてね！ ホールでの過ごしかた

- 携帯電話や音が鳴るモノは電源を切りましょう。
- 演奏中はお話しないで静かに聴きましょう！
周りの人も演奏を楽しみに来ています。
- 録音・録画、写真撮影は禁止です。

2022
1/22

Promenade Concert

プロムナードコンサート No.394

指揮／大友直人

サクソフォン／上野耕平

デュビュニョン：アルトサクソフォン協奏曲《英雄的》op.81

(2021)【上野耕平委嘱作品／世界初演】(24分)

ラフマニノフ：交響曲第2番 木短調 op.27 (60分)

 東京都交響楽団

デビュー：アルトサクソフォン協奏曲のソリスト 上野耕平 さんにうかがいました。

サクソフォンってどんな楽器？

1840年代に、ベルギーの楽器発明家アドルフ・サクスが発明した楽器です。木管楽器のメカニズムと金管楽器の素材（真鍮）が使われています。そのため、音量や響きは華やかな上に小回りも効く楽器になっているのです。

主にフランス産のケーンを加工して作られた、リードを振動させて音が鳴る仕組みです。指使いは、皆さんが学校で吹くリコーダーと非常に近く分かりやすい配列になっています。

そしてサクソフォンの特徴は、楽器の種類が豊富なところ！ アドルフ・サクスのソプリロ、ソプラニーノ、ソプラノ、アルト、テナー、バリトン、バス、コントラバス…これら全て同じ指使いで吹けてしまうのです。

クラシックはもちろん、ジャズやロック、歌謡曲まで、幅広いシーンで主役になれる数少ない楽器です。



上野耕平さんって、どんな人？ KOHEI UENO

幼い頃の夢は電車の運転手。来る日も来る日も鉄道のことを考えている少年でした。そんな少年に転機が訪れたのが小学2年生の時。通っていた小学校の吹奏楽部の演奏を聴いた時のことです。



「これやりたい！」

聴いた瞬間物凄くこう思ったのです。

楽譜が読めないはもちろん、音楽というものに興味もなかった当時の上野少年。それが音楽、サクソフォンとの出会いでした。以来今年で22年、音楽と共に歩んできています。

上野耕平 Kohei UENO

東京藝術大学楽器科卒業。第28回日本管打楽器コンクールにおいて、史上最年少で第1位ならびに特別大賞を受賞。第6回アドルフ・サクス国際コンクール第2位。第16回世界サクソフォンコンGRESでは、ソリストとして出場し世界の大御所たちから大喝采を浴びた。デビュー以来、常に新たなプログラムにも挑戦し、サクソフォンの可能性を最大限に伝えている。メディアへの出演も多く、サクセスカルテット「The Rev Saxophone Quartet」、吹奏楽「ぱんだウインドオーケストラ」のコンサートマスターとしても活躍中。第28回出光音楽賞受賞。第9回岩谷時子賞 奨励賞受賞。



指揮者 大友直人 Naoto OTOMO



©Rowland Kirishima

桐朋学園大学在学中に22歳でN響を指揮してデビュー。これまでに日本フィルをはじめ国内の国内のオーケストラのポストを歴任。現在は東響名誉客演指揮者、京響桂冠指揮者、琉響音楽監督、高崎芸術劇場芸術監督。ロイヤル・ストックホルム・フィル、ルーマニア国立放送交響楽団など海外のオーケストラへの客演も多く、フィルハーモニア管弦楽団の日本ツアーの指揮者も務めました。

邦人作曲家作品の初演、ジェームズ・マクミラン作品やジョン・アダムズのオペラの日本初演など幅広いレパートリーでも知られています。

ラフマニノフ：交響曲第2番 ホ短調 op.27

SYMPHONY NO.2

ロシアの作曲家セルゲイ・ラフマニノフ（1873～1943）は、音楽好きな家庭に育ち、4歳からピアノに親しんでいました。やがて音楽院に入学しましたが、少年時代の成績は今一つ。途中で落第（試験にパスできないこと）したこともありましたが、しかし、いところが勧めてくれたモスクワの音楽院に転校してからは、ピアノを真面目に勉強し、作曲にも情熱を注ぎ、見事トップの成績で卒業しました。



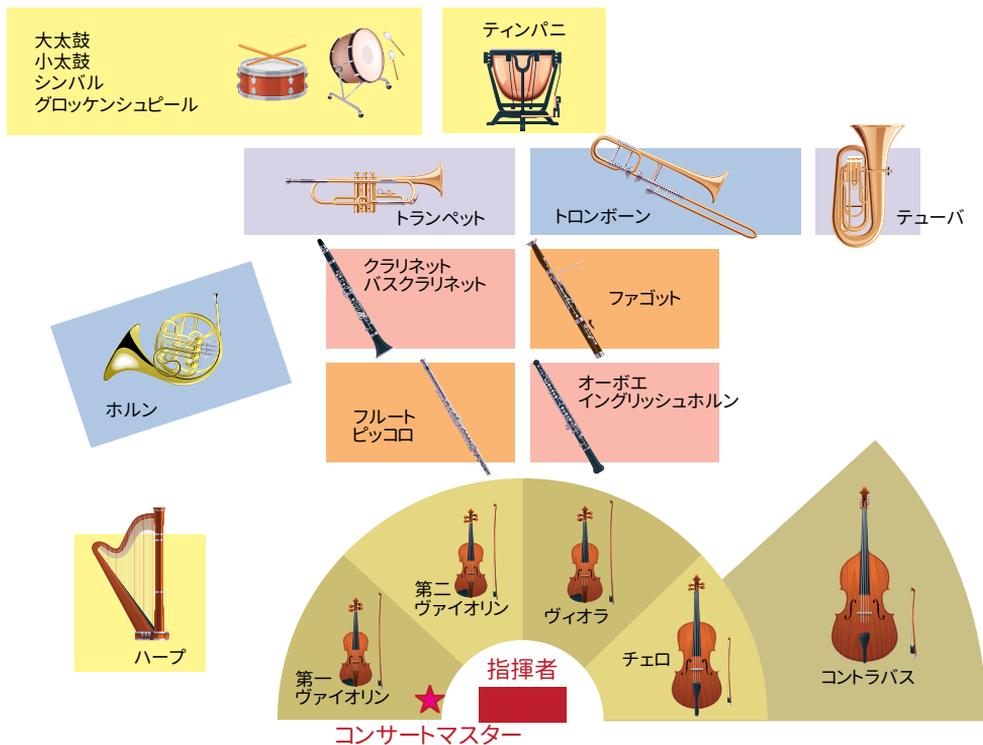
交響曲というのは、オーケストラが演奏する規模の大きな音楽作品のことです。音楽院を卒業してすぐに、ラフマニノフは最初の交響曲を作りました。ところがお披露目の演奏会は大失敗に終わってしまいました。ラフマニノフはすっかり自信を失ってしまい、一時期はまったく作曲する気持ちになれませんでした。しかしその後、ピアノ協奏曲などが大変な人気となり、ふたたび作曲をするエネルギーがふつつつ沸き起こってきました。また、劇場の指揮者としても活躍し、ピアニストとしての才能も発揮していきました（彼はとても大きな手をしていました！）。

交響曲第2番は、ラフマニノフが意欲に満ちていた33歳の頃（1906年から1907年にかけて）に作られました。この頃ラフマニノフは、ロシアの政治的な混乱を避けるために、ドイツ東部の街ドレスデンに家族とともに滞在していました。落ち着いた暮らしの中で仕事に集中しながらも、どこか故郷ロシアを懐かしく思っていたのでしょうか。哀愁に満ちた切ないメロディーや、胸が熱くなる情熱的なハーモニーがあちこちに登場します。

およそ60分もかかる大曲ですが、雰囲気異なる4つの楽章に分かれています。雄大で伸びやかな第1楽章、颯爽と大地を駆けていくような第2楽章、この交響曲の中でももっともロマンティックなメロディーが登場する第3楽章、華やかで勢いに満ちた第4楽章で構成されています。

オーケストラ配置図（1月22日 プロムナードコンサートNo.394）

演奏する曲によって使わない楽器もあります。
どの曲にどの楽器が使われているかにも注目してね。



TMSO 東京都交響楽団

東京オリンピックの記念事業として
1965年に東京都が設立しました。
都響（ときょう）という愛称で親しま
れています。

上野の東京文化会館を本拠地として、サントリーホールや東京芸術劇場などで定期的にオーケストラの演奏会を開催しています。その他、交響組曲『ドラゴンクエスト』（全シリーズ）や『Fate/Grand Order』などゲーム音楽の演奏や、都内の小中学生を対象に開催している音楽鑑賞教室、病院や福祉施設への出張演奏など多彩な活動に取り組んでいます。



2021年7月に開催された東京2020オリンピック競技大会開会式では、「オリンピック賛歌」の演奏（大野和士指揮／録音）を務めました。